

# CSR

TaKaRaグループは、安心・安全な商品やサービスをお届けするとともに、医療の進歩に貢献し、人々の暮らしを豊かなものにしていくことで、様々なステークホルダーの期待に応えていきます。

## CSR活動の基本方針

TaKaRaグループは、社会の一員として企業理念に則り、本業の事業活動を通じて社会に貢献していくことをすべての基本としています。国内外を問わず様々な環境変化が予想されるなか、グループ全体の企業価値向上を実現していくためには、成長戦略と一体化したCSR活動の強化が不可欠であると考えています。

こうした認識のもと、「TaKaRaグループ中期経営計画2013」では、国内外のグループ会社一体となったコンプライアンス体制の構築に加え、生物多様性保全の推進、CO<sub>2</sub>排出量削減などの環境活動の強化、グループ全体の成長に不可欠な風土・人財の育成など、CSR活動をグループ全体でより一層強化していくことを定めました。

## CSR活動の重点分野

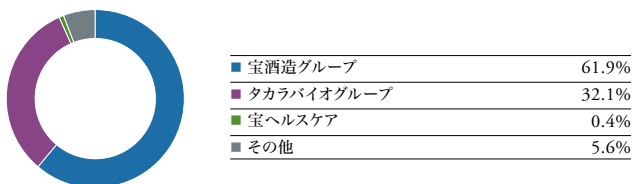
TaKaRaグループは、安心・安全な商品やサービスを提供し続けることが最も重要なCSR活動であると考えています。こうした商品やサービスを通じて、人々の暮らしを豊かなものにするとともに、環境保全などを通じて社会に貢献しながら、グループの持続可能な成長の実現を図っています。

## TaKaRaグループのCSR活動

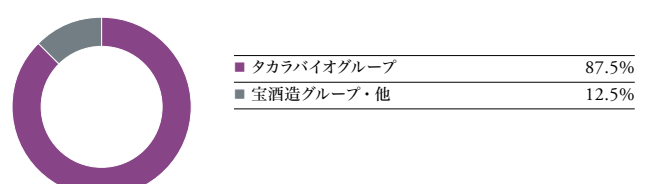
主要なCSR活動は、グループ全体の売上の約90%を占める宝酒造グループの取り組みが中心となっています。宝酒造グループの主要事業である酒造りは、穀物や水など自然の恵みをもとに、微生物という自然の働きによって行われます。酒造りは、こうした自然の力を借りて初めて行うことができるため、「自然との調和」を第一に掲げ、自然環境に配慮した活動を展開しています。加えて、酒類を販売する企業にとって避けて通れない空容器問題や、適正飲酒の啓発活動もまた、CSR活動の重要課題であると認識しています。

一方で、タカラバイオグループは、売上こそグループ全体の約10%ですが、従業員数ではグループ全体の約30%に達するとともに、研究開発費ではグループ全体の約90%を占めています。タカラバイオグループは、革新的なバイオ技術を通じ、がん領域やAIDSといったアンメット・メディカルニーズの高い疾病を対象とした遺伝子治療や細胞医療という先端医療技術の開発や商業化を進めています。近い将来、タカラバイオグループの事業は人々の生命や健康に大きく貢献し得ることから、生命倫理の観点からも適正に推進していくことが、これまで以上に重要になると認識しています。

### 従業員構成



### 研究開発費構成



## CSR活動の重点分野における取り組み

### 品質と安全：品質検査（宝酒造）

宝酒造は、食の安心・安全に対するニーズに応えるため、確かな品質管理体制のもと、商品企画から製造・出荷に至るまでを実施しています。さらに、お客様に正確な情報をお伝えするため、事前審査のうえ、原材料・栄養成分などをラベルに表示しています。



### 品質と安全：誤飲防止（宝酒造）

宝酒造は、目の不自由な方の誤認飲酒を防止するため、1995年に国内で初めて缶チューハイの缶ぶたに点字で「おさけ」の表示を入れ、2002年には、やはり国内で初めて紙パック酒類のキャップに同様の点字表示を行いました。



### 品質と安全：適正飲酒（宝酒造）

宝酒造は、酒類を販売する企業の重要な社会的責任として、「ルールを守った節度ある飲酒」を呼びかける様々な活動を行っています。お酒の正しい知識や飲み方をまとめた冊子「お酒おつきあい読本」を発行しているほか、1995年からは未成年者飲酒、飲酒運転防止のための注意表示を酒類製品に表示しています。



### 生命倫理と安全：倫理面・安全面の審査（タカラバイオ）

タカラバイオでは、ヒト由来の組織・細胞・臨床材料・ゲノム・遺伝子等を用いた研究開発事業、これらを用いた遺伝子検査・受託業務に関する事業およびヒト組織・細胞製品の供給に関する事業等を行っています。これらの事業活動を行ううえで、関連法規の遵守はもとより、人権の尊重ならびに当該事業活動を通じた社会貢献が適切に行われることが重要であると認識し、「生命倫理・安全規程」を定め、社内に設置した生命倫理委員会の審査を厳格に行っています。

### 環境保全：4Rの推進（宝酒造）

酒類業界にとって、酒類などが消費された後に発生する空容器処理は重要な問題です。宝酒造では、新たな容器の発生を回避する「はかり売り」を実施するなど、容器の4R（リフューズ：発生回避、リデュース：減量化、リユース：再利用、リサイクル：再資源化）を推進しています。



### 社会貢献：環境啓発活動（宝ホールディングス・宝酒造）

宝ホールディングスでは、公益信託「TaKaRaハーモニストファン」を1985年に設立し、以降毎年、自然環境保護活動や研究に地道に取り組む団体や個人に対して助成活動を行っています。第1回からの助成先数は延べ281件、助成金累計は約1億3,500万円になりました。また、宝酒造では、2004年から、次世代を担う子供たちに自然の尊さや生物多様性の大切さを伝える「TaKaRa田んぼの学校」を開校し、環境教育を実施しています。



宝酒造におけるCSR活動は、以下のホームページおよび「緑字企業報告書」でご確認いただけます。

<http://www.takarashuzo.co.jp/environment/index.htm>

# コーポレート・ガバナンス

## コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社グループでは、コーポレート・ガバナンスの充実を、持続的な企業価値向上のための重要な経営課題と捉え、以下の基本的な考え方のもと、その充実に努めています。

当社グループ全体の企業価値向上のために、

- ① グループ各社に権限を委譲し、自立経営のもと事業の展開スピードをあげ、各社において企業価値向上を追求する。
- ② 会議体の定期的な運営等を通じ、各社の事業報告や今後の経営方針・事業戦略について意見交換しあえる風土を維持することで、グループ全体の企業価値向上を追求する。
- ③ 法令遵守の姿勢や倫理性を確保し、コンプライアンス体制を維持することで、グループ全体での企業の社会的責任を果たす。
- ④ オープンかつタイムリー、そして正確な情報開示を継続し、適時開示に対する社内体制を維持することで、経営の透明性を高める。

## コーポレート・ガバナンス体制について

当社は監査役設置会社であり、2011年6月29日現在、監査役会は5名（うち3名は社外監査役）で構成されています。また、取締役会は10名で構成されており、うち1名は社外取締役です。

この体制下において、監査役監査に加え、株主を含むすべてのステークホルダーの視点に立脚する幅広い見識をもった独立性の高い社外取締役が、監査役会や内部統制担当役員と連携を図り業務執行の監査・監督に関与することで、経営に対する監督機能を強化しています。

また、持株会社として、グループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、グループ全体の企業価値の最大化を図ることを目的に「グループ会社管理規程」を制定し、「グループ戦略会議」、「マザー協議連絡会議」、「タカラバイオ連絡会議」、「宝ヘルスケア戦略会議」、「機能子会社協議連絡会議」を通じて重要案件の事前協議や報告を義務付けるほか、特に急を要する事項や専門性の高い内容については、随時「経営会議」を開催して事前協議を行っています。

## 監査役監査、内部監査および会計監査について

当社の監査役は、取締役会等の重要会議への出席や業務・財産および重要書類の調査ならびに必要なに応じて担当取締役および担当者への聞き取り調査等を実施し、これらを通じて、取締役の職務執行の監査を行っています。内部監査については、被監査部門から独立した監査室を設置し、「内部監査規程」に基づく内部監査を実施して必要な対策を講ずることにより、職務執行の適正確保に努めています。なお、監査室、監査役会および会計監査人は、監査計画・監査方針・監査実施状況に関して定期的に意見交換を行うほか、情報・意見交換、協議を行う等、相互連携を図っています。

## コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与える特別な事情 当社の上場子会社タカラバイオ株式会社について

2011年3月31日現在、当社は、タカラバイオ株式会社（東証マザーズ、コード番号4974）の議決権の70.8%を所有する親会社であり、当社と同社の関係は以下の通りです。

### ① 当社グループにおけるタカラバイオ株式会社の位置付け

タカラバイオ株式会社は、2002年4月1日に、物的分割の方法により当社の100%子会社として設立しました。その後、当社の議決権所有比率は、同社による第三者割当増資、公募増資、新株予約権付社債の発行等により、現在の議決権所有比率となっています。

2011年3月31日現在、当社グループは、純粋持株会社である当社、子会社37社および関連会社5社で構成され、その中でタカラバイオ株式会社はバイオテクノロジー専門の事業子会社として位置付け、当社グループとしてバイオ事業を推進しています。

### ② 当社のグループ会社管理について

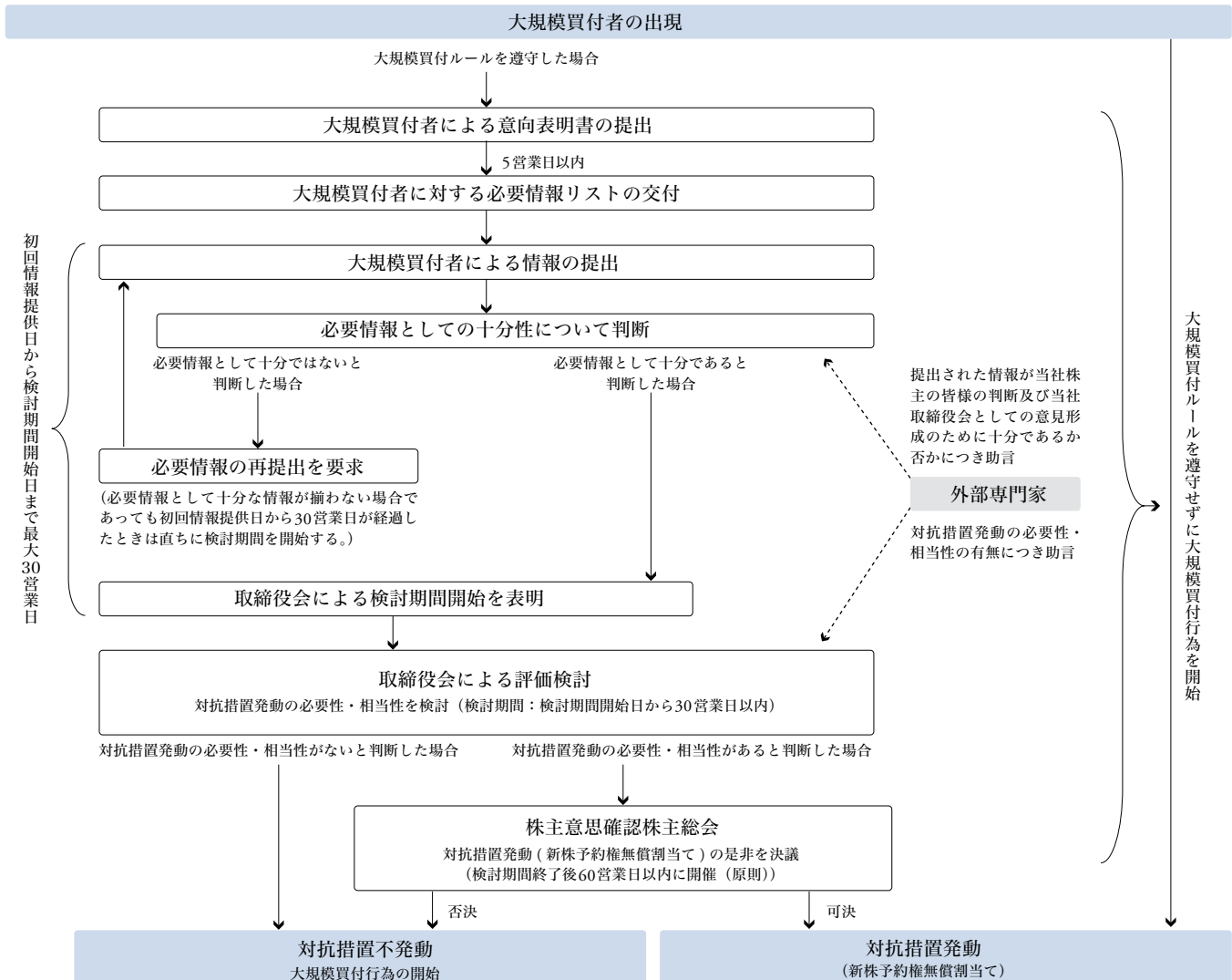
タカラバイオ株式会社についても、前述の「グループ会社管理規程」を適用し、同社の取締役会において決議された事項等の報告を受けていますが、取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、同社が独自に事業運営を行っています。

また、「グループ戦略会議」、「タカラバイオ連絡会議」等の会議体では、タカラバイオ株式会社の代表取締役、役員、執行役員等の出席を求めています。これらの会議体は、グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間での報告を目的としたものであり、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。



# 大規模買付ルール

- 1 当社取締役会に対して、事前に大規模買付行為に関する必要十分な情報の提出
- 2 (a) すべての大規模買付者は、検討期間開始日から30営業日を上限とする当社取締役会による評価検討が終了するまでは、大規模買付行為を開始してはならない
- (b) 株主意識確認株主総会が開催される場合には、株主意識確認株主総会が終了するまで、大規模買付行為に着手してはならない



# 役員

2011年6月29日現在



後藤 功

宝ホールディングス株式会社 代表取締役会長  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役会長



大宮 久

宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役社長  
兼 タカラバイオ株式会社 取締役会長



大宮 正

宝ホールディングス株式会社  
代表取締役副社長  
(経営企画・財務・経理・IR・CSR・  
環境広報統括)  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長



柿本 敏男

宝ホールディングス株式会社  
代表取締役副社長  
(総務人事・業務革新推進統括)  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長



仲尾 功一

タカラバイオ株式会社 代表取締役社長  
兼 宝ホールディングス株式会社 取締役

## 宝ホールディングス株式会社

取締役	矢野 雅晴 (CSR担当・環境広報担当 兼 宝酒造株式会社 常務取締役)
取締役	松崎 修一郎 (経営企画担当・財務担当・経理担当・IR担当 兼 宝酒造株式会社 専務取締役)
取締役	岡根 孝男 (総務人事担当・業務革新推進担当・総務人事部長 兼 宝酒造株式会社 取締役)
取締役	中尾 大輔 (兼 宝酒造株式会社 専務取締役)
取締役 (社外取締役)	植田 武彦 (兼 宝酒造株式会社 取締役)
常勤監査役	釜田 富雄
常勤監査役 (社外監査役)	半田 邦博
監査役	友村 秀夫
監査役 (社外監査役)	香川 孝三
監査役 (社外監査役)	北井 久美子